

株式会社フジ・メディア・ホールディングス  
代表取締役社長  
清水賢治様

2026 年 2 月 6 日

清水様

おめでとうございます！

フジ・メディア・ホールディングスが、その中核事業であるメディア・コンテンツ事業に注力する決断をされたことを祝福いたします。これは大胆かつ称賛に値する一歩であり、事業の中核に焦点を当てるために必要な経営判断です。メディア・コンテンツをグループの戦略的中心と位置付けることで、貴社の強みである、社員の才能と創造力を最大限に引き出してゆくものと弊社は確信しております。ビルに投資ではなく、今こそ「人」に投資をご決断されたことを称賛します。そう、コンテンツにフォーカスする時間なのです。これは 2024 年初めの貴社との対話の開始時から一貫して弊社が訴えてきた核心的なメッセージです。勇気ある極めて戦略的な決断であり、株主はもちろん、あらゆるステークホルダーにとって最大の長期的価値を創造し、日本のメディア・コンテンツ事業を「強く」するものとして非常に喜ばしいことです。

メディア・コンテンツを取り巻く環境は国内外で急速に進化を続けています。AI が主流となる新世界において、ハイクオリティなコンテンツの価値は不可欠であり、今後さらに需要が高まります。「コンテンツは王様」です。AI は単なる手段に過ぎず、Netflix のようなグローバルプラットフォームと競争する上で必要となるものは IP とコンテンツであり、コンテンツの川上にいることが重要な局面となっております。メディア・コンテンツへの明確な戦略的フォーカスは、意思決定の質の向上、資本配分の規律強化、実行速度の加速を可能にします。この戦略的フォーカスこそが貴社が有する潜在能力を最大限に引き出すために不可欠であると弊社は確信しています。

長期投資を主軸とする株主として、ダルトン・インベストメンツおよびその関連会社はこの方向性を強く支持し、貴社が競争力を再構築する姿を楽しみにしています。そして歓迎すべきこの決断に至るまで、弊社が貴社の内部議論を促進し支援する役割を果たせたことを誇りに思います。変化を受け入れた貴殿および貴社の経営陣の皆様に祝意を表します。

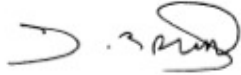
貴社が為し遂げた重要な変革を以下に列挙します。これをわずか 12 ヶ月で成し遂げたことも驚きです。誰が想像できたでしょうか。

1. 日枝体制を脱却し、スキャンダル後、より優れたコーポレートガバナンスを採用することで、内部からの変革を強化したこと
2. メディア・コンテンツ事業への注力を確約したこと
3. 外部資本を活用し、不動産ポートフォリオの最大化を推進すること
4. バランスシート改善のため、弊社が要請した額の 3 倍に相当する大規模な自社株買いプログラムを実施し、不動産ではなく知的財産（IP）で評価される企業を目指すこと

# DaltonInvestments

この事業再編は、従業員の意欲向上、クリエイターやパートナーとの関係強化、そして最終的には株主価値の向上につながる可能性を秘めていると弊社は確信しています。なによりも、若手人材への機会創出にもつながることを期待しています。従業員は、課題に対する答えを既に持っています。変化を生み出し、推進する力を持つのが従業員、そして現場の皆様です。

この重要な一步を踏み出した貴殿のリーダーシップを称賛するとともに、貴社が次の成長段階へ進むにあたり、建設的な対話を継続できることを楽しみにしております。



ダルトン・インベストメンツ・インク  
最高投資責任者  
ジェームズ・ローゼンワルド三世